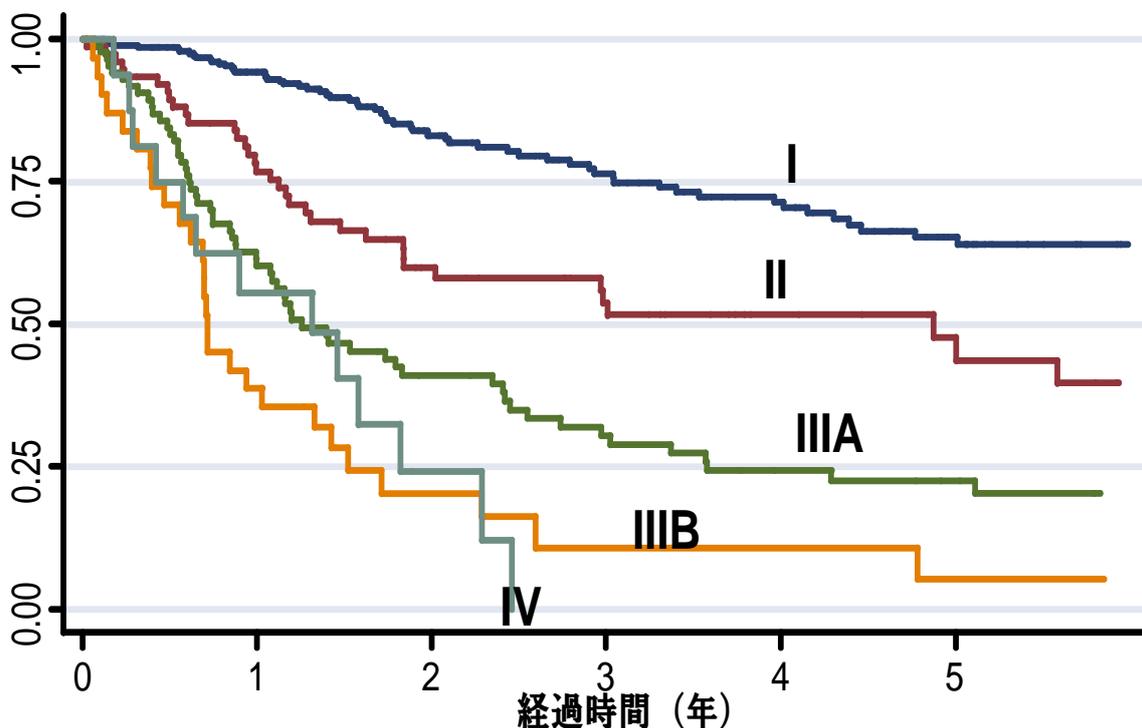


当院は肺癌を含め呼吸器外科治療を積極的に行なっています。

【肺癌】

肺癌ガイドラインに沿って、肺癌の手術を含めた集学的治療を行なっております。当院は呼吸器専門病院としての性格もありその特色を生かし積極的に治療を行なっています。

下の図は、肺癌の病期ごとの生存曲線です。病期が若い群で成績が良好です。



我々の病院の特色は、

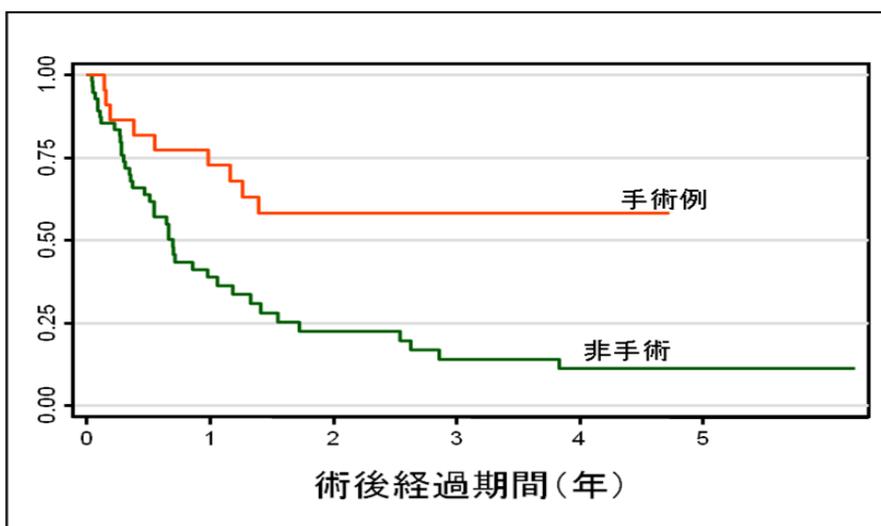
- ① ひとりひとりの患者さんについて、診断から外科治療、内科治療、そして緩和ケアと幅広く、かつ、最後までできる限り治療を行なっていきます。近年、癌の増殖メカニズムの研究が進歩し、そのメカニズムに合わせた分子標的薬が開発されてきています。肺癌についても EGFR 遺伝子変異、ALK 遺伝子変異などのある肺癌に対してそれに対する抗がん剤が使用されています。また、癌の免疫治療についてもいわゆる免疫チェックポイント阻害薬が開発されています。当病院でもその進歩に合わせ積極的にそのような薬剤を使用し、その効果を目の当たりにしています。
- ② 抗がん剤治療による生命予後改善はもとより肺がん特有の疼痛、呼吸困難対策、また、当院の特色である呼吸リハビリテーション、在宅酸素療法を駆使して患者さんに適したトータルケアを行なっています。

- ③ 気管支喘息や COPD（肺気腫）などの慢性呼吸器疾患を合併している肺癌患者さんでは、治療に困難を伴います。当院は呼吸器専門病院として呼吸機能障害を有する患者さんを多く診ており、また、そのような患者さんに肺癌が発症するケースも多々あります。呼吸器専門医を多く持つ当院の特色を生かして、呼吸器内科との連携のもと手術適応を的確に判断します。また、術後の管理、呼吸リハビリテーションを適切に行います。



③（１）肺気腫合併肺癌

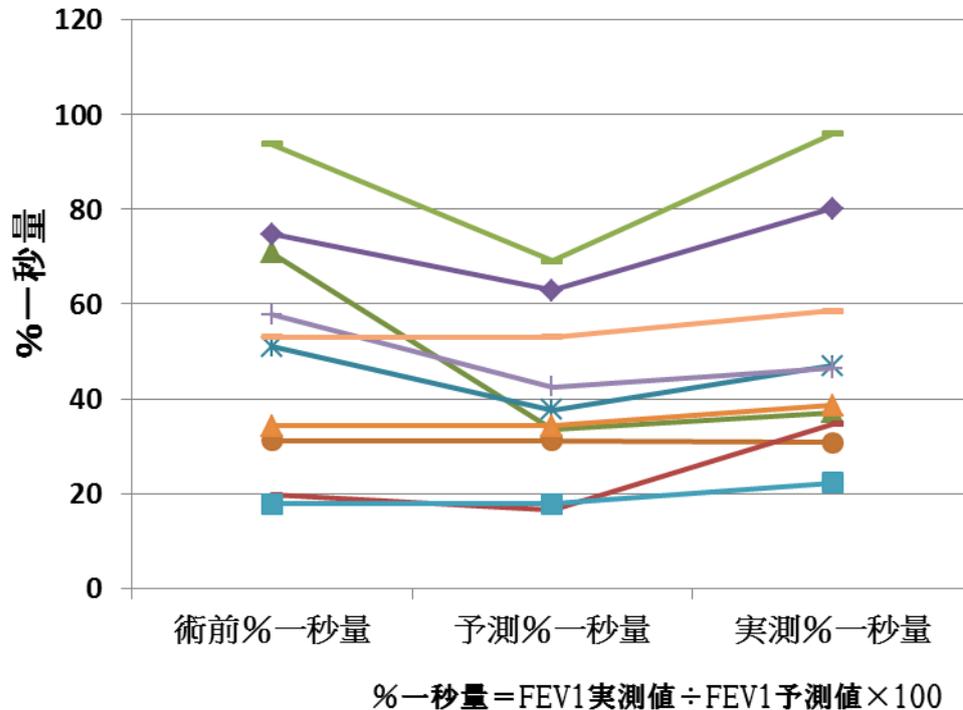
肺気腫合併肺癌患者さんの治療成績の一つをお示しします。ステージ IA の患者さんに絞ってみた手術例、非手術例の成績です。適切に適応を決定すれば、比較的良好な結果が生まれるものと考えております。



手術例では比較的良好な成績がみてとれます。

下の図は、手術前後の肺機能の一つ%1秒量（呼吸機能の一つの指標）の変化を見たものです。左が術前、真ん中が術後予測されるであろう%一秒量、右が実測値です。術前より術後に増加する症例もあります。すべての肺気腫の患者さんにはあてはまりませんが、適応を十分検討すれば手術が可能と考えております。

手術前後の%一秒量の動き



③ (2) 気管支喘息合併肺癌

気管支喘息合併肺癌患者さんの例です。値はリットルです。

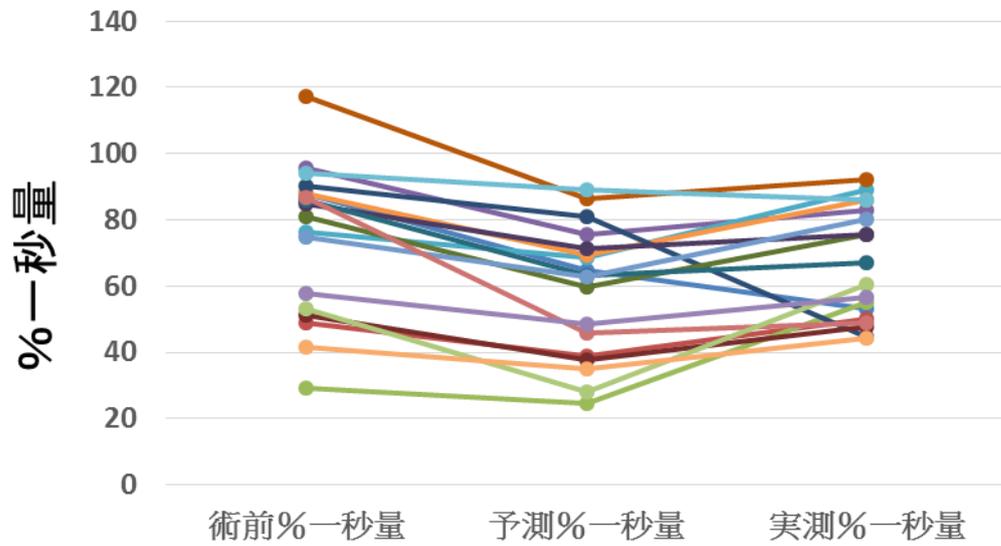
術前肺機能 (平均値 ± 標準偏差)

	非喘息	喘息	P
V C	3.22 ± 0.83	2.71 ± 0.76	0.038
F V C	3.22 ± 0.77	2.62 ± 0.74	0.019
F E V _{1.0}	2.38 ± 0.56	1.68 ± 0.67	0.0005
DLC0 (%)	100.4 ± 32.2	96.8 ± 25.8	0.78

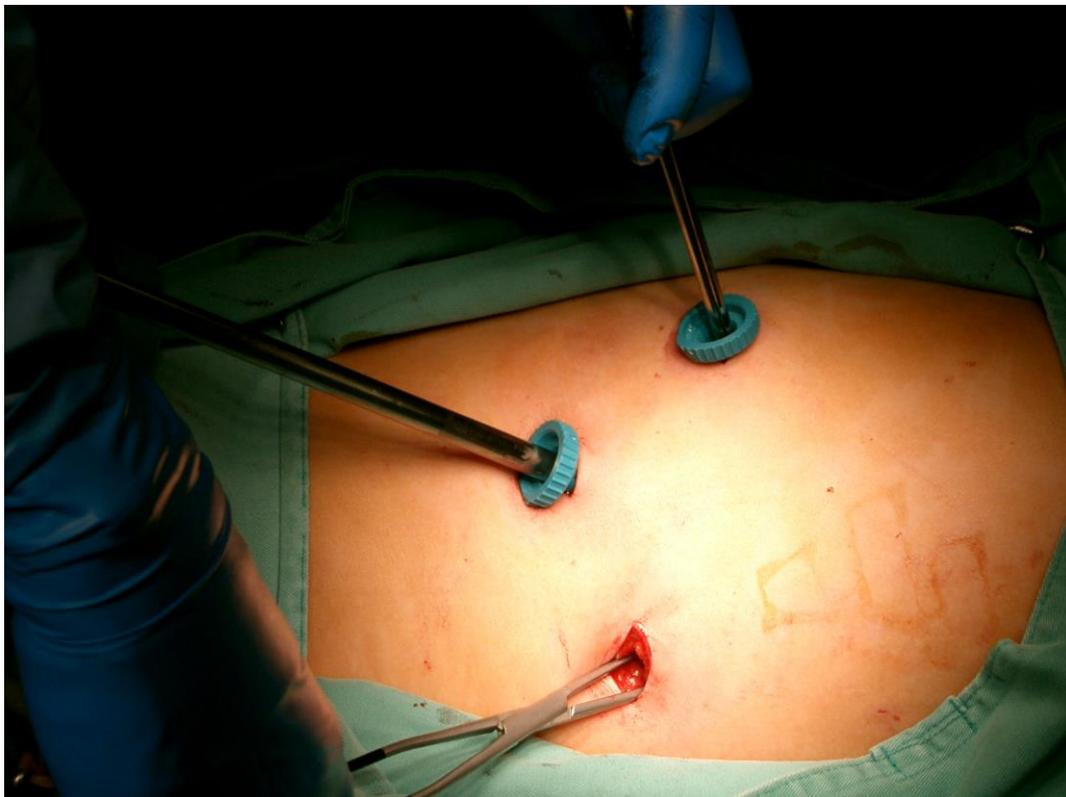
やはり、術前肺機能は悪いです。

気管支喘息患者でも、下図のように予測値より改善する患者があります。

気管支喘息患者での%一秒量の変化



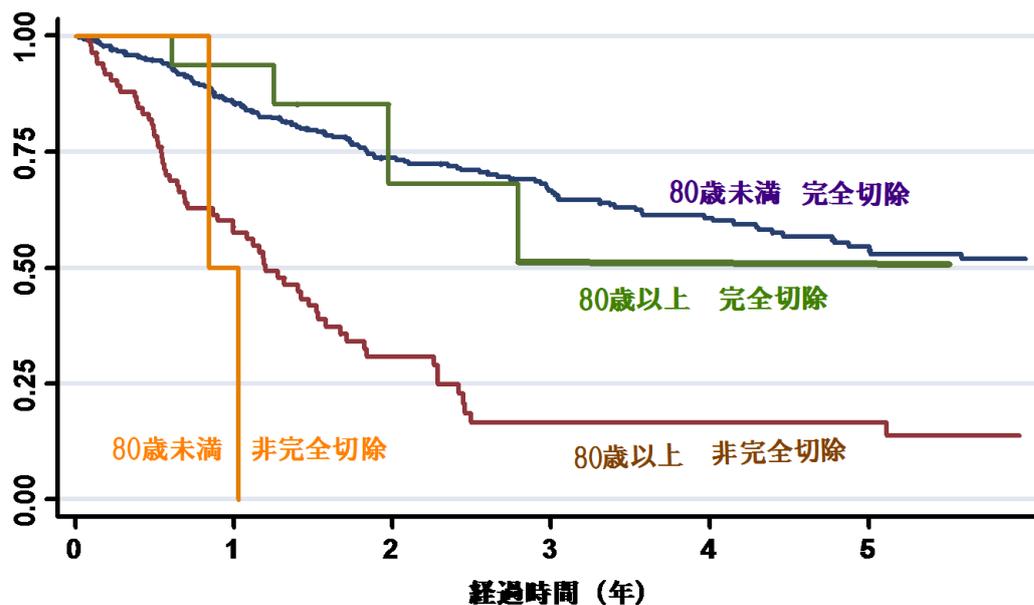
- ④ 胸腔鏡下手術も積極的に行なっております。下の図のように胸壁に穴をあけて手術を行います。



下の左図が胸腔鏡を使用した肺がん患者さんの術後の傷をしめしたものです。右の従来の開胸に比べ、傷も小さくまた患者さんへの侵襲も小さく術後の回復は早くすみます。



さらに、高齢化社会に向かって、肺がんも高齢化が指摘されております。80歳の平均余命は男性約8年、女性は約11年と言われております。80歳以上でも適応があれば、手術を行っており、下の図のように病巣が完全に取れば80歳未満と遜色のない成績が得られます。





【膿胸】

結核性膿胸がよく知られていますが、重症・難治性肺炎に伴う膿胸や、手術後に合併する膿胸もあります。膿胸の手術は優れた技術と経験が要求されます。この手技が可能な施設は現在極めて少ないのが現状です。当院は古くから膿胸の手術を手がけてきた歴史があります。肺癌に膿胸を合併するケースがあり取扱いに難渋します。そのような患者も 2000 年から 20 名を超えており、治療を行っています。どうぞご紹介いただきますようお願い致します。

【非結核性抗酸菌症】

近年、肺結核の発症は減ってきましたが、非結核性抗酸菌症は増加してきております。多くは、内科的治療で治療されますが、空洞性病変をもち、排菌が持続し病状が進行してきている患者も散見されます。呼吸器内科の先生と協力し、手術適応を決め手術を行っています。

【自然気胸】

若年性の自然気胸が典型的であり、比較的治療も容易ですが、COPD などいろいろな呼吸器合併症を持った患者さんの治療は難渋致します。当院は呼吸器専門医を多く持ち、呼吸器合併症を持つ患者さんの経験も豊富です。ご紹介いただければ幸いです。

【巨大肺嚢胞症】

肺組織が壊れ、風船状に巨大化し正常肺を圧迫するものです。労作時呼吸困難を生じるものや、正常肺が圧迫され消えていくように見える Vanishing Lung と呼ばれているものまであります。これを切除すれば、症状の改善が認められる場合が多いと考えております。

肺気腫の患者さんの中で、このような病態に近い患者さんもおられ、手術により症状が緩和されたかたもおられます。一度ご相談ください。

今後も呼吸器内科と協力し、より良い医療ができることを目指します。宜しく願いいたします。

国立病院機構福岡病院 外科外来 TEL 092-565-5534 (代表)

診療時間 : 火・木 午前 9:00~ (受付時間 8:30-10:30)

上記時間以外でも、平日 17:00 までは、対応可能です。

(外科担当医 上田 仁)

